

のアルバム

▼9月10日野洲幼稚園
(株京滋建設)



▲8月27日中主幼稚園
(株京滋建設)



10月14日三上小学校
(株吉野組)



社会貢献活動 園児・児童のために

社会貢献活動の申し出を受け、野洲幼稚園・中主幼稚園の園児たちが運動場で楽しく遊んだりお遊戯ができるよう、また園児たちの送迎車両が安全に駐車できるよう(株京滋建設)が整地作業などを行いました。

また、(株吉野組)から「かまどベンチ2基」の材料支給と製作講師の派遣を受け、三上小学校5年生の総合的な学習の一環として防災について学びました。

児童の代表から同社に対し「大切に使いしていきます。」と感謝を述べました。

のびやかな成長のために

大阪ガス(株)から同社の企業市民活動“小さな灯運動”の一環として開催されているチャリティ活動「御堂筋ブックリサイクル」の余剰本(児童書68冊、DVD17点)が寄贈されました。

これは、子どもたちののびやかな成長を願ってお譲りいただいたものです。

市では、野洲図書館ほか市内の公共施設で活用したいと考えています。



▼10月7日 野洲図書館



▼9月9日 西河原



農業は楽しいよ 早く大きくな〜れ!

野洲市青年農業者クラブと中主幼稚園の園児たち(4歳児)がジャガイモの植え付け体験を行いました。

これは、「野洲市農業振興計画」の一環として、子どもたちに農業の楽しさをもっと知ってもらおうと毎年実施され、今年で5年目です。

園児たちは、小さな色とりどりのスコップを手に、一生懸命ジャガイモを植え付け、青年農業者は未来の担い手となるよう願いを込めて指導しました。

12月の収穫が楽しみです。

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

菖蒲の漁業

博物館で11月20日まで開催している秋期企画展「湖辺の暮らし —琵琶湖周辺の生活史—」は（休館日：月曜日、11月4日（金））、琵琶湖周辺の集落の生活にスポットをあてています。今回は展示の中から、本市菖蒲の生活の一端、とくに漁業について紹介します。

菖蒲は湖岸に面した地域で、かつては、集落の住民のほとんどが漁師であった集落です。江戸時代後期に、野洲郡では琵琶湖岸の新田開発が進められ、菖蒲はこの新田開発の推進の中で成立した集落だと考えられます。菖蒲に鎮座する杜若神社は、天保9年（1838）に祭神を勧請したと伝わることから、天保年間（1830～44）には集落が成立していたといえます。

江戸時代の文書、とくに集落の状況を記録した「明細帳」と呼ばれる資料をひも解くと、菖蒲の生業について触れた記事に、「網干場」「魩」といった用語が記されていることから、江戸時代には漁業が展開していたことがわかります。

また、菖蒲の漁師、松沢松治さんのお話や、今回かかげる写真（菖蒲自治会蔵）から、漁業が盛んであった頃の菖蒲の様子を紹介します。

かつて、菖蒲では、蜆漁が盛んに行われていました。菖蒲で捕獲された蜆は菖蒲漁港に立ち並ぶ小屋に持ち込まれ、そこで茹でられ、身と貝殻にわけられました。身は「ミシジミ」と呼ばれ、各地に出荷されました。松沢さんの場合は、「ミシジミ」を船で天津まで出荷していたそうです。また、貝殻は菖蒲の浜に廃棄され、山盛りとなっていたそうです。

松沢さんのお話によると、その他にも刺網漁でモロコヤフナを捕獲するなど、菖蒲は漁業が盛んな集落でしたが、昭和50年頃には蜆が少なくなり、現在ではほとんど捕れない状況にあります。また、魚もなかなか捕れなくなった現在は、菖蒲で漁師を続ける人は数名程度になっています。

秋期企画展では、菖蒲の漁業の紹介とともに、琵琶湖の魚や食文化についても紹介していますので、ぜひご観覧ください。（博物館学芸員 齊藤慶一）



菖蒲浦沖 蜆かき
（菖蒲自治会蔵）
昭和20年（1945）



子どもたちの心と向き合います

JICA（独立行政法人国際協力機構）青年海外協力隊のボランティアとして派遣される荒木京子さん（野洲）が出国にあたり、市長を表敬訪問しました。

荒木さんは、心理士としてアフリカで少年院を退院した少年少女の社会復帰支援を行われる予定です。

心のケアにより1人でも多くの子どもたちが自立することを願います。

▼9月20日 市役所



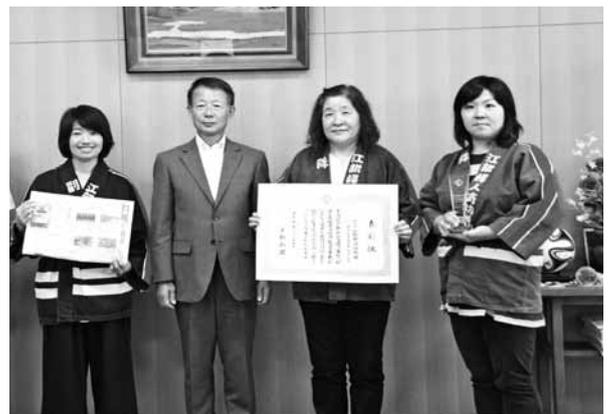
地域防災の発展を願って

江部婦人消防隊（山本真由美隊長、隊員20人）が、第48回滋賀県優秀消防団・職団員等表彰を受賞され、報告のため市役所を訪問しました。

山本隊長は「災害が発生したとき、自分たちが中心となって地域の皆さんの防災意識を高めていきたい」と語っておられました。

地域防災意識の向上に更なる活躍を期待します。

▼8月25日 市役所



左から米田桂子さん、市長、山本真由美さん、浅井恵さん